図書館

フォト劇場（15）

写真が生むものがたり

ま裸を着てデルヴォーの女人はも真夜を図書館のやみに佇ちをり　原賀瓔子

夜の図書館の横を通ると、いつもデルヴォーの裸女を思う。デルヴォーの裸女は、夜の駅や夕やみの舗道に蕭然と立っていて、光景との繋がりがない。書物と関りなく、図書館の闇に佇つ裸女。私だけの一枚だ。

文芸祭に図書館長賞をもらひたり十歳だつたわれの短歌に　小坂喜久代

新任の担任は色白で下駄を履いて来た。四年生だった私と黒部先生の出会い。二十二歳の先生は小説家志望、授業で初めて短歌を教わった。図書館には数冊、先生の小説が並んでいる。会いたくなれば図書館に来る。

写真・木畑紀子

ああかくも崩落危機の迫りくる谷間をわれはいまだ歩けず　薄葉　茂

もともと図書館とは縁遠い私。しかも十年前の震災で収納物の大崩落を経験して以降、そびえ立つような本棚群には近づくことができない。宮城県図書館の庭の「ヘビに注意」を見たので、なおさら行けなくなった。

図書館は書き言葉にてもの思う場所　陽の斜に差しこめる場所　小島なお

お静かに、という無言の空気が天井から、書架から、独特の匂いから、押し迫ってくる。浸透圧に似た力によって私は私から薄まりながら漂い出る。おじいさんの開く本、中学生の自習ノートを透明な私は覗いて回る。